

札  
提  
序  
不  
大  
學  
動  
物  
學  
教  
室

心  
句  
三  
良  
樣

止  
披

膝  
尔



三六



九月丁亥

大阪市西區南堀江通壹丁目

勝本鼎一

一室の中と云ふ事なり

お隣へお成中にお

清少様よりお隣へ

在りお成中にお

次に三々お成中

お成中へお成中

お成中へお成中

お成中へお成中

お成中へお成中

お成中へお成中

お成中へお成中



思ふもろくは子にお母  
おん

はまごんよきはゆゆ子な  
お

おんた〜 お娘〜 おん

はゆまの及はほんまに

心掛〜 お〜 おん

なれ〜 はあ〜 おん

おん〜 おんはあ〜 おん

気がきいけと  
何やあ

と夢の中に下をきく

〜おん  
おん

〜おん〜と〜おん

はあ様〜おん〜おん

おん〜おん〜おん



川原へと行くお成り

お母様は「たす」は之氣し

おとあしは一緒の台所

「さし」は「あし」帳帳

目をさすお非書は「おれ」

おれ

切角ゆりゆり「おれ」や二

お母様「おれ」お地「おれ」

おれ「おれ」おれ「おれ」

おれ「おれ」おれ「おれ」

おれ「おれ」おれ「おれ」

おれ「おれ」おれ「おれ」

おれ「おれ」おれ「おれ」

おれ「おれ」おれ「おれ」

おれ「おれ」おれ「おれ」

おれ「おれ」おれ「おれ」

たふさふさのうらみ  
下種まのり

あゝ何ぞ安んぢやらん

高地は路は雨天のうら

又何ぞは非常な不潔く

思ふにうらみは一日

事柄は枯をよる心をも

清地のお時折に心お意

しる心と古を枯中ら

さしおしり一柳のり

多くおぬらまゝお腰

一白

はちのうらあゝんや折

とあゝん

毎二三日はとてはあ

皆おぬらまゝおぬれ

よゝのうら



毎二日ト 泣き止まぬ

皆ふらふらと かくれ

よめるはま

かきとぬいじり

かき

いり

九月十二日

仁子

御父様

しる



持啓 具此 以上

茲以 健勝 予 題 句

度 序 石 美

以 薩 子 以 子 歸 東

北 健 相 亦 及 子 二 院 子 一

者 居 子 一 尤 美 州 子 休 神

神 子 之 美 昨 日 之 朝 未

書 也 鳥 子 兩 業 子 松 町

敬 授 子 坊 子 入 社 子 一

交 涉 子 之 美 子 子 好 意

表 子 子 子 意 子 子 強 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

日 日 子 子 子 子 子 子 子 子 子

表のうしろの意を記す

清り申すに十中六七もの

ありさうにのぼるに

日々に定まると月より上り

然るに、面目より上り、

右に公情私情よりして

力に様、下り力、

然るに、女子、社、

あ、も、一、

ナリカ、ナリ、

右、美、女、

至、

ク、

算、

右、



等不記三能ふと右中丸

る。一、事、其、沈、中、

夫、昇、心、沈、中、

一、事、其、沈、中、

一、事、其、沈、中、

事、其、沈、中、

一、事、其、沈、中、

事、其、沈、中、

一、事、其、沈、中、

事、其、沈、中、

一、事、其、沈、中、

事、其、沈、中、

力、

一〇、事、其、沈、中、

事、其、沈、中、

事、其、沈、中、

事、其、沈、中、



二〇 改まるる。能くせんじ  
或は舟にが。あはれ舟にが  
の、鏡にうすこつからか。

只ぬす方古舟すじに肩ん  
きつるつからふんだらう。

三〇 果して物言が古かどか。

不よ不満、声大ナレバ、いざこ

いふと、  
和服手ぬしし御

かたやも保し

危険とく。

口以上三つを念孫に思ふ

田と高あつた人、答ふ言

まこと名なり、運換久クうに

と、或は、向う迄あつた、又、

か、あ、と、  
——と、あ、

是、と、更、  
解、マ、れ、

た、  
ま、  
あ、  
ん、  
ん、  
ん、

ん、  
ん、  
ん、  
ん、  
ん、

ん、  
ん、  
ん、  
ん、  
ん、

わがあゝと云ふは

是れより更に解つたは

たのま所、まふは、武内

ん中より不事、過行。又

小女子を度、成り信、

舞の、あふ、ふま

東の、武の、部、長

し、と、路、を、ら、る、ま、

笑、の、ら、る、ま、

あ、一、版、を、ん、と、

う、ま、な、ま、

の、ま、ら、る、ま、

成、る、ま、

江、の、ま、

是、し、ま、

向、し、ま、

笑、の、ま、

嘲、の、ま、

不、久、年、の、ま、



身にしむらんをさかすむるは  
先づ世にうらやまなき事長に於て  
嘲罵するは其衝に當りては  
不文筆に於ては此の不文筆  
の自に方せんやめは打て報  
復するは甘しいことなること  
し不遊は一紙に撮れし  
所空に痛恨は此の如し  
嗚呼。にビコンは政に  
ふたり無かる我に  
戦ひの事は何れも苦しい  
テ、しむるは下下木  
こころ  
空に我事なる事なき事  
此の空の事、世に  
我れ又なる世に  
の事

此の事、世に

石に



の清は

此の清は

右の清は

○積の清は

一、此の清は

井の清は

二、此の清は

此の清は

此の清は

此の清は

此の清は

此の清は

此の清は

此の清は

此の清は

此の清は

此の清は

此の清は

○清の清は

「花の」石の也  
三 20 花の石の、石の石

の清らかなる

A  
一 花の石の、石の石  
二 勤快。一 石の石、石  
三 花の石の、石の石  
四 石の石、石の石  
五 石の石、石の石

B  
一 花の石の、石の石  
二 花の石の、石の石  
三 花の石の、石の石  
四 花の石の、石の石  
五 花の石の、石の石

以上、花の石の、石の石  
花の石の、石の石  
花の石の、石の石  
花の石の、石の石  
花の石の、石の石



此者、君の御成の事なり  
此の御成の事なり

宣旨の事なり、御成の事なり  
宣旨の事なり、御成の事なり

或は、御成の事なり、御成の事なり  
或は、御成の事なり、御成の事なり

是の御成の事なり、御成の事なり  
是の御成の事なり、御成の事なり

或は、御成の事なり、御成の事なり  
或は、御成の事なり、御成の事なり

是の御成の事なり、御成の事なり  
是の御成の事なり、御成の事なり

或は、御成の事なり、御成の事なり  
或は、御成の事なり、御成の事なり

是の御成の事なり、御成の事なり  
是の御成の事なり、御成の事なり

或は、御成の事なり、御成の事なり  
或は、御成の事なり、御成の事なり

是の御成の事なり、御成の事なり  
是の御成の事なり、御成の事なり



監査役一人を、取締役

に、取締役として、取締役

情に、或る、年々、七、八、

代、を、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

孤、社、長、と、三、四、五、六、七、八、九、十、

の、始、末、の、力、の、法、の、意、い

折、(以、て、控、物) 前、使、の、情

名、と、社、長、と、の、中、と、の、折、り

由、<sup>ハ、ト、ド、カ、ウ、ニ</sup>、折、り、必、要、と、し、て、上、の、折、り

父、ト、カ、キ、ト、上、の、折、り、ト、上、の、折、り

以上、折、り、の、折、り、ト、上、の、折、り

愛、社、の、折、り、ト、上、の、折、り

の、折、り、ト、上、の、折、り

の、折、り、ト、上、の、折、り

の、折、り、ト、上、の、折、り

の、折、り、ト、上、の、折、り

の、折、り、ト、上、の、折、り

の、折、り、ト、上、の、折、り

本がはよもくろくす

片をせしかしははは

あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝ